

柳 東弦 (リュウ ドンヒョン)

韓国出身

筑波大学 人間総合科学学術院 博士課程

海外への現地調査(韓国)

2019 年から新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が拡散されるにつれ、国内旅行のみならず海外渡航が制限されるようになった結果、日韓剣道史を研究している筆者は韓国への現地調査を実施することが難しくなってしまった。その影響で、両国を往復しながら研究を進めることができなくなったため、主に日本での現地調査を中心に行いつつ、剣道関連資料を収集・発掘していった。日本国内での剣道関連団体などで所蔵しているものは、日本剣道史に関する資料のみならず日本植民地下朝鮮剣道史に関する貴重な資料も存在していた。それらを活かしながら研究を進めていった。

筆者は 5 月 2 日(月)にワクチン 3 回目接種を完了した状況である中で、最近、新型コロナウイルス感染症が収まっているので海外への入国と出国の制限が緩和されるようになった。このことにより、ワクチン 3 回目接種証明書の持参とともに、PCR 検査(陰性証明書)を受けた上に、韓国に帰国すると自宅などでの待機が不要となった。すなわち、ワクチン 3 回目接種証明書と陰性証明書があれば今の時期に韓国に渡航しても隔離せずに、すぐ現地調査を実施しつつ新たな史資料を収集することが可能となったことである。そのため、筆者の研究課題を明らかにするために、5 月 31 日(火)から 6 月 15 日(水)まで約 2 週間研究の目的(現地調査)で韓国に一時帰国する予

定である。韓国では新型コロナウイルス感染者数が減少しているが、基本的な感染対策(手洗い、マスク着用、三密の回避)を守りつつ現地調査を行っていきたいと考えている。

韓国に一時帰国して無駄に貴重な時間を使わないようにするために、現地調査を実施する場所(剣道連盟、学校、図書館、博物館、道場など)や日程を事前に研究ノートで記録し、収集すべき剣道関連史資料を表に作成して整理している。さらに、関係者とのインタビュー調査を通して貴重な情報も得られたいと考えている。

以上